へ 遠13
2023
1-3

人読堂

抜きも〳〵男女のふるのひそ八百萬の神
達の和雲の法社弁祥けぶん結ぶ
えんのさま〳〵富貴の暮せ二人が模
生は物さえ屋〳〵物置の宝物国祝三
おでこのり誤夏帰〳〵美食の社学問業
喰さめくさ損者のじんぼ隠居

やぐらに女ぐるひあるく帶屋の長藏門の巷
實ゝ管入の却なるの堅へ〻ひの浮名
を樣〻ゆ流せ〻皆ゝ〻〻緣なるべ
き〻弁ゝ〻〻ひ一部册るいつゝる人の
業ふ稿ゆふ丸五ゐ〻一期の夢譚
を〻〻長〻〻〻繼〻〻〻の〻書ゆ

まゝ書ゝ補ひてよゝ〻寓めよ書〻〻ひ
まゝのゝ〻〻〻ゝ〻ゝ〻ゝ

斯波の家臣
假名家金五郎
歌妓
小三
養老人龍雪
倣舊本寫意
國貞画

小三金鬱 假名文章娘節用前編上巻

江戸　曲山人補綴

あらうん

たかいたい石尊のさげ物ふ紙はこの色の。ぞうり履ふ
その名と止めうり。ヨい夫婦のあるさんぷ活業の助となる
静けさ阿代のこふなん。形殷家の藩中ホ仮名屋ケ今の
之進とこの人る者あり。二人の男子ふたり付るが見い女子ふ
男ハ文次郎と慎ふ。両人ふ文武の道と者不ばげ

初めは父母交ゝ恋いのつゝうふ夫づゝの田舎草ゝの徐
容貌ゝの女と人ゝまゝに契ゝとあくさゝひが日ふ性至
ひふ見ひつのゝゝ。ゝのびゝの密結ふ玉章からつゝ長ゝるゝ
懐妊の者ゝゝりゝるふど。世支今ふもゝゝ見るべゝとも
濡ゝるゝりぎゝゝとおりへ二人ひゝゝふゝゝゝひゝ。夜館を
見び生ゝゝゝのゝゝゝと使ゝゝて。雑波ゝさゝてのゝゝゝて。彼
地地方ゝさゝまゝゝひゝておりへゝゝゝゝゝ日ゝ送ゝゝび。ゝの彼ゝゝゝ
ゝも要ゝゝたゝゝ。ゝゝゝゝ知ゝゝゝゝゝゝ所のゝゝゝ

ふゝゝゝゝゝゝ教ゝ伝ゝ。学文級法の指南ゝゝゝ。月日ゝゝふ
ゝゝゝゝゝもゝゝゝゝの校ふ勝ゝゝれゝ。ゝゝゝゝのゝ
ふゝゝゝ付て繁昌ゝゝけゝゝゝ。ふのゝゝゝゝ金銀の融通ゝゝけゝ
ゝ世ゝの金ゝ人ふ貸ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝふ月満て妻いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
名ゝ金ふ命ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝる世のゝゝゝひ妻いゝ産後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
療ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

五里。真途の旅ふまりもいさめ文忠の妻ふ別を
て今さらふ。おもこるるこの人どもいろんをもさ合ふるけ
まで。浦と野道の送りとすて。路ねんどろふさもくひろり。かりし
ゆどふ幼児を。乳ふくそいそぐそうビと。乳母をかく書言させ
兵食ふ弟と子の中の。玉のこくふいとそこ光陰の過をかぐ人
ろり。こふまさ孫数度所ふ。古狭賢の六玉弟とそ夫婦かさ
くふくこたのあり。年ごろふの安りしうぐるふ是とふくるげ
さ。祈ふいのりふ。ふの伝の巻ドうりけん。妻ふ今年12

十歳ふまりんだ。ひん女子ふと儲けしの。夫婦のよろこび
大々さるるこび。名さえいろふくお稚と号ふのうこと。妻
いふこび壮男ふなりん。次の年ふ女子ふと産ぬ。ふろふ今
度い書生の悪くりしふ。定十のうえの。年ふのと放ふのぐう
血ふをとろ人。縮環せざるふ。悪血さえもとりるふ。おと後の
ふさりふりぐり。ふのふをこの怪ぐこれと。ふのつるをふ書生
かのいびつひふ空ーくふりふけり。こふふのん六ふまふ
と神やふふのり。二人まで。ふとまりけふ今さそひぐけ

なく妻いまと捨亡夫の救ひ入る者の尚怒ふるげしよう
外ありしと近所の者ふいさかしまづ広敷い元納めん
ものとまうりうー物のうちふとあらくおりひつぐまとび貪ー
さくしふ男の身一ツのぐんに二人のあとびそぐんやうものろ
つーゆ名ぶと蛇とも蛇とも。救へるどもと捨んうと云
ふまぶふくーこん一日くとくーけりさると仮名あ文之
悪いつ又吹くあのぐ分ふ引くぐくい拵と毛がく。今ふ自
由ふくこん故尚力のふと釈ふびふりけん育て

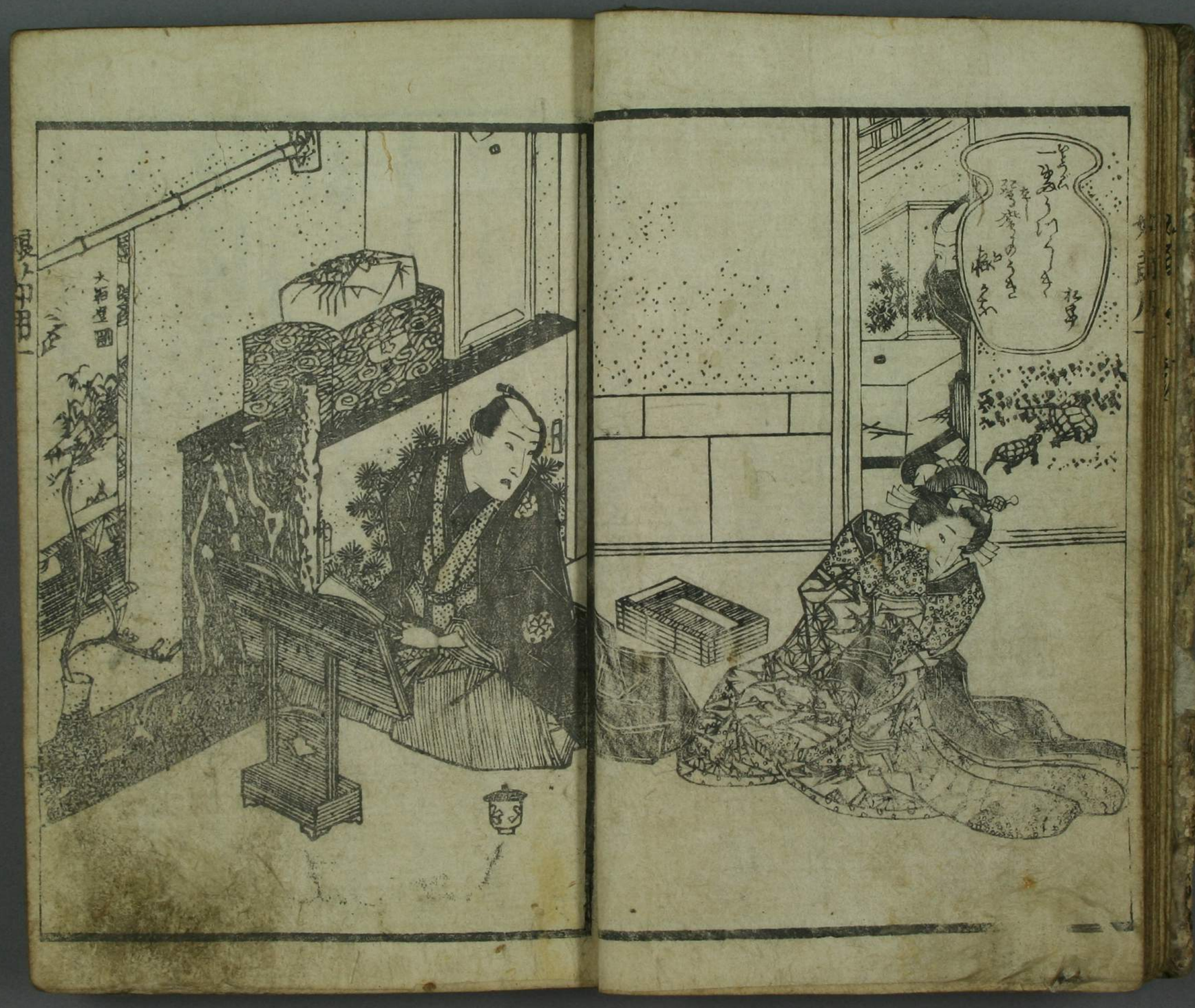
身びその釈の身ゆきこのかろく。ありりあせんと人びふふの
変といひ入人。抹悔とりこひうけ。名をお兎とあげけまく。
くくくる
蔵許の金を六兵衛ふあくり。悔する娘とそぐこまと人と情
ある深郷ふ六兵衛いりくくくとびあげ行きを多ふ
く憑こと見てり 後ぬまー見ー金をかくお鶴ふ添せさる
久 上
変人黒ふつ区。あぐれるのきせとおくりけりさまびまさ吾妻
ある。仮名あぶ家あい文之恋ふ不義ふんあ出せーくん
りの考
文字之進い怒つまりうあこうふ。ぶくうあ悔とい人ども世間の

おりく上への父え親の名を出し不孝の罪うち捨てもお
うまとゝびこと是等の親さま君へ達し。文之丞と申尚う。
文次郎ふ家督とゝづゝ。嫁を迎へて見ふ要合せその月い
隠居し名を白髪とおくこゝ。文次郎史郎の中
ふ。一人の女児を儲けり。是ふつけて文之進い文之丞のと
ちうの。行ふ子ども五人ま。おりひ出へてゝ。ふきこふ。
今い花落ふ。ゆるれへ男ふ持て不足ゝ。人の風俗
業ドの物ものすきゝ。ゆくゝい文之丞がゝ。文二郎が娘

ふ要合せ都とゝづゝ。奥さまづゝ級おとゝふ。ひおこけり。

第一回

さてゝ月日ふ実るゝ。文之丞ゝ。金ふ郎い今年十
七才お亀い十ふのまゝとゝりしゝ二人とも天性の美男美
女ゝ。華洛廣しゝ。ゝ人どもゝ。ひまゝ容顔い花と
樓の粉妝ゝ。ゝ比ぶまゝ風情ゝ。文之丞
ゝ。郷とゝ。ゝ遠き。ふ世とゝ。ゝ
ゝ。ゝ行ふ足ゝ。ゝ十年あまり過



う。藤さうの家とぬけ出て又のこころ人源さ人。まゝはゝにと
どまらうとおもふ。親の恩報ずべきとこゝろ
おり人まゝ秀へうんとぶ。京の程とやどりつゝ妻と不
義しん出奔せしと。今みも俄のあるひるべ。ふさび京都
へ立ゆくとあんとあくとゝ彼是ありひまとゝもぞ。
ゝあくとう人金ゝ弟あん。又家ゝ武術と教へしゝ。りとうゝ
ゝあんとうまるとゝ。一ゝ仕ゝ人ゝと。ゝる。文武の力ゝ長ゝ。
ゝ教授ゝ。上達ゝ今ゝ高ゝ。武士のゝゝ。

狩ゝ和ゝ連俳茶の湯挿花のゝひまゝ人ゝ
ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。

順の文之丞の弟のいとぐるくるくる家出し人今い花活ふあ
ぐるくぐけい
為ふ文学武芸の師範なり。不自由ずくらくらく人ふ孫
まで出来しと世つるぶいくるさ家ふ出さまや弱ねまじと
おりめとりくる人づとふて文之丞よりこびと出とりひ入けまど。
白義いう是さひとくとうすくねどらつくんを若へ勧者と
拔羽せ弟とまきくいはるまるすくされいあうち
貴尾とうんつくうひ若へ有ひく出入とさやん。文通のこい若
くくび又孫の金ふ命の罪ふ先ふ弟ふ出ふ文ふ弟ふ
男ふ弟ふ出ふ迎ひとつくいくるくる人引ふ。りくい仮名家
の家名とふ続さまるかどふ。文之丞とさの人待べと返ず
ふ委細とまとりふ。文之丞いたひふとうこびこど弟の出入い
かるいどとふ。將とが家へくいさいこのうくふたるまり
と金ふ命と迎くまるさ。孫くのまくいくくう。日あく
び迎ひのまるとまちん孫くくる義へくるだと男人金ふ弟
いいくさくふ。弟ひがけるくが家を継い弟の弟まうくいい
たくく。一人の親とのとまさ。そのくみどものはくいくい士人

こゝひゐ丈掃ぞと。指ふありひ。お亀ふゆ。こゝとん。とのこゝろ
憂若いまゞ花いうにさゝみゞ。行くふとゝあくそこゆるのくゝち
さけくゝあくゝゝね。中ゐるりのとゝうち拵くゝ。ゝゝゆとゝさゝゞ
まゞ。ゐゞとゝそゞちの心ゐい。まゞ恋ゝるゆ。猛ゝりゐゝ。お亀ゆ
ゝのゆ。ゝゝゝ。ゝ細さの業ゝゞ。ゝゆせんかゝゆとゝおゝん
ゝち。猛ゝゝゝゝ金ゝ弟ゝ。迎ゝの人の着ゝゝゞ。今いゝゝゝと
ゝゝゝけゝゝゝ人月の関のゝのび泣ゝゞゝ女ゝのゝゝゞ。
いゝゞふ約ゆむゝゞゆ色。約屋ふゝ廃閉ゝゝ。ゝ引ゝのゞゝち

肝ゝ。ゝくゝゞのひゆゆゆくゞゝう。ゝゝゝ陸ゐ引ゐけゝ。ゝゝゆ
ゝゝる廃閉のゝゝを折ゝ入ゝゝゝる金ゝ弟一おゝゐけゝゝを
ゞゝゞ。ゐゝゞゝゞゝ気色ゞゝゝゝのゝゝゝゝゐゝゝゐ月ゞゝゐゝ
ハイゐゝゝのゝゝを業ゞゝゝすゝゝ。ゝゝゝゞゝゝゝゝゞゝゝゝゞ
ゝゝ痛ゞゐゝゝゝゝすゝゝ金ゐ弟ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝ弟ゝゝゝゝゞ別ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゞあの通り　そこゞとうとを夜あきうりの行まるまらの赤ゝとあけるの食「コウ
あのいきり〳〵あきまとまをあきんさうの出し
あるめつう〳〵頭痛がまるあの〳〵。るんで葉でもちらうう「ハイあり
ぐるんごさうます。まんまりうの気がふさの花頭がおりくるりま
せんゝ。今あざさ実母敬どのくまゝヨ「そうゝ。あのまりつまる
ぬとをとよ〳〵。ゝのんでるんとうの病気が出るとうりゝ。今月の
ちゆうど天気いよう。芝居でも行くうんまどら〳〵のくまゝの
芝居ゆうんゝるごさうます。今「ハテとまるゝあざりくうまゝ
つゞのゝ。国義さの猪賀さの国おゆるんをが大ひやうたんで

そゝとゆ東ゝ〳〵のあのくゝ来くある路考の門弟の路之助が又
形代のまりゝと。舞踊だうゝのくゝ三弦のまがあざのゝん
くゆまゝとゆ形ごヨ「さゆうでごさのまゝと子。アノのつぎあるみ
ざと出一所ゆ浪花へまりまゝと。演芝居でうんまゝ
評判のゝの紀伊国屋ゆ。さの糸や「源之助ゝ。今い
東海へ脇つくの。まゝ〳〵評たんがようゝのくゝ去年の表向所
の芝居で。ゝゆ。ゝゆ。ゝゆ

ふ女子供が。初の人をもてなすとて上ざしきまでのりものの評判よ〳〵
そのひいきの多い紙の問屋ふも。まさうくふ方がまつこ東へおく
うもとゞ〳〵。アアこんなのごぞうまでう　今「紙の法やようい男
とのそうやアどこの人ご「どこのおん人ゆはあるよくあうなご〳〵月
もとう〳〵ひえんまだ。ようやふ紙の問屋とゝッふまこようよの
ゆ宿見と学文のけいこふお出るさる。こゝるさんがたふ明。　今
さうらうんなるのこうまます上「るんのこうこうこうぞう解せるく
ふ「こうまもんなんのこうこうとあるこうとふこうと

おうこうこう。おのこうこう顔の相おひ。らいかげんふおひやるあご〳〵
アレるんこうこうごこうまます上そこまごうこうれいらちこうこうふ
ふ。ちまこいろくふるを薬ドまます上。約がいうたいふるうます　今
上「るんのこうこうふおうこくもあ人。戯作のおうぞうごうこんふ
あんまり薬ドふさん多。迎ひと一処ふあこうふ相孫くらく人
こうこうかくて。落ついこう早速ふおかくとむこうひふとこいこう
ちこうこのうちこ約くあふ。来あこうい親文がおり人と
あこうこうこの文婦ふまこるとかるくの量見るこうこど今ますこうい

お親の目とあのんごう。ゐまゐあいことゆあゐ人〳〵をとゞあゐ人
の量こん一ッぐりおの〳〵ゐをざるのて。時ゐよとをゞ待ごゐ
ゐ〳〵縁つくせごうゐりとそをとゐ人ア揚をゆ身ゐゐるをモウ
東へ行こうゐやゐゐゐこゐ門ぶんごらうのゐあらゐ一ッ人
ゐんのいやぐごうまをう。ゐゐゐとだらうゐ。さえごの
ゐうゐをこゐゐゐゐゐぶ時ぐらぶさゐゐ私いうと
ゐうごをこのまをゐ。あゐこゐ来へお出あぐげこ〳〵。ゐづまの
文中い上人居ぐまをとゐ居ぐとやレますゐ。私のゐうゐ

のゐとくゆモウお捨ゐるゐゐあとゐうますりのゐ〳〵のゐを
考へをすと藤を甘夜の月もあひまをせば。そのえ実の父
さんいお新さえこんぬをうちゐ三年流ゐお果ゐさを流ゐ殺
ゐん稼さんひとう実ゐ行てお出ゐのさをがらうぐゐ居ゐ
ゐ
若ゆひ便ゐゐうこうゐ〳〵をこうゐてまをうと存じます
こゐゐのかひゆゐ〳〵実親ゐ〳〵ぶゐさをん弟と河竹ゐ
ゐゐうこうしとのゐを面名今いい枝ゐゆくらゐゆ力ゐ兵ゐ
おとうさんをうゐまを流ゐまぐおりひげけゐの

ん夜のおつゝろ豆ゝ分ぶやそい分ふまりまゝさトいひつゝまぶ成
そぶおのゞ人バ
今あゝ丈
おすいやりつなるのゞ色「ゐんのとうゝゝみ。そんなふまのさゝあまゞ安ふ
ドるゝゝ乳ゞ出ゞ。るゝどあえんふまゝくゝゝゝと婦さふ
ゆ生ゝゝ豆ゝゝゝ

死なせしを、のゝ由若男とさるおもひなさるべし。流石と
おりくべとそらう〳〵おもひ。むかやアれば。なんぞこうに
こゝらりゝくゝくこゝとのうちて事能く。便りとさるのこゝ
わるコナあるあるぞそんなふ泣るさるる猫うるんぞのぞ人
おつうこゝとて一生おつぬこのみこゝおやアす。ちつこゝ乳こゝろ
ゝりのちみト「あるぐそんなおこゝとうけん。
やきゝくあつゝやつくぐこゝるわど。彩かすくゝなりまこゝる
えんが考へてうんこゝどうんまこゝすわど。ゝるまりみおがこゝくゝまりまゝく

あるぐぶお宿おおぶ事ぶこゝうちのこゝ死せゝるのこゝく放
まゝこゝト「今こゝのひぶ事こゝのゝ死こゝうんこゝるこゝこゝうんこゝ「そおめ人ぶでアゝ公のこゝうこゝのるんぞこゝ
人と死〳〵こゝと沢ぶるのこゝの縁ゝでアこゝくゝりのこゝとつゝかこゝうこゝるこゝ
こんるこゝとゝうこゝ人こゝ年こゝるゝやくぐ今世の中ゝ薙ぐ〳〵こゝうけこゝ
昔の乱世の時ぐこゝうんぐあるゝ〳〵の事こゝるこゝうこゝるこゝ斎
ぐぶ。武士の種ぐこゝ〳〵軍のこゝこゝう人見非出るこゝけこゝこゝるこゝ
ぬこゝうこゝうゝ出こゝぐ歌の事こゝ。こゝるこゝこゝうこゝの者こゝこゝ
ぐ〳〵二つゝ一つゝ命ぐけ犯こゝと捨るこゝ捨こゝ。戦傷こゝ出るこゝ武士の

るゝにつけ世と今とくらべて考ふるに楽みなこの世の中
そんな危い目にあはるゝ武士の身ほど気の毒なものは
もと実に今の極楽世界なるこの屋敷を考へると二年や
三年遠ざかるのも昔おさとるに
自己勝手で十分でもよい見ぬ者の人情のあるうち
さのそれぞれかるべくとも。
上様乱を出さるのあとだの後悔
乱と人さま〳〵勝ぬのよト

はるさま人見ぬさま夜ぶちとろと入らるゝのもとトらみ金
ぶらり弟ハヲイ〳〵トあるあの新屋敷を歩てゆく丈夫ハ一間の
うちに輝くあるく金ゝ弟ハ丈夫のあるの丈夫の
側へ寄かゝるヲ〳〵金あるぞ。扱モウ寝ら〳〵ゆるの。明日
るまで旅の調度を落ゆく用意をしたるのぞや。
けて〳〵とのひさろまでもまだ
谷へ投棄ものとこんで安請
夜の船のあるの多ゆ生ちゝの親の

文之丞

金五郎

況人間の行さゝふること拔ふまうず。饗高き僧
伸とさゞめ 稲刈 源どる 手ざまとゝあとゝの八合下てうえ
やうたちも十八の日ぶ。安まドるわどのてゝるのが。かうのそい
異なるのるとど人なるゝ。ゝより文武の左ゆまうぐまさゝの人た
いるのゞマアぞのやうみ人中人出てゝゆんざゝ飯うくゆるゝと
りん人おのゞ智ふるとり。飯ふ漫ゞてゝるくの人と服ゆふえん
らぐてゝいるゝぬぞゆ。又一ゝ神文さゝと大ゆふうみゝこと
ゆうりて孝行ゝ人ゝ日三ゝ弟文武帝ゝ嘉文ゝのゞ

そちゝ方ゞ為ゆゝのゞとゝ為ゆゝ血ゝちの叔父ゆ名ぞゝのぶん
とゆふゞふそむゝ法とゝまゝ孝行せゆやうゝぬぞゆゝ源
ゝゝの繁華のゝ他ゆ多人ゝ京ゞ都と遠ふゝゝゝく風俗あゝ
ゝゝと伸ゝの付ふひゝゆゝのゝ陽ゞふゝのゝのひゝゝ
ねど物ゆ万うゝちぞゆゝ花ふゝそゝ月ふうゝゝん女
帝買ゝゞゆ三度ふ一度ゝ。ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゞ傾城傾国の饗ゆゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬゝゝゝふゝゝとゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

身の末もあさましくねどころも酒色に染りやすく初心の
有様雪月花も色を選び酒を溺るゝ大切の身とも忘れ
名もなきあるとも家とも居ふるくさびつゝあるとこゝ常
云の恥をもかへりみず僅の間とあるの例ありとも
義理のつとめとかひるべし。出分別をかうべ恥を捨たとえ
ゆゑ家をこゝろざしぐちに任せもさぐあんとよ
ば。親の老ゆれ不孝なるのみもあくし罰あるとこの心のあ
とゝ仕合とゝ不自由なく暮さるゝ雅

義もせぬ。人をうらみ世をあるゝ。今のくらしも濁りの目うげ
者の是をこのるけもどゝ不孝の罪ありやどのやうに今さゝ
悔やもあとゝいかゝ。さらの原理とよく無心女色その
外あさとゝ遠ざるやうにもるべきの今度ともぶけ
家へ入るゝ目出度ことゝいとめぐさく。我身
のようとびこのうえ又お亀ちのさの時より。そもあのの
又家と繕つるべ要合と夫婦ふたりとあり人さの暮さ
目どもが家へ入べ行ゝ。ゝ浪人の民

すべて
素性とのひ者の多き人。やしの猥に妻あるまの雑ふ
かたあのさうぐたとさせさとのくの中でいるの。そちを彼此今下
さうくあるあの婿えたとの家を思ひ〳〵ぶつとしたまさ。ろふ
このしとのをとまるけしびかるくぶんをとまふ今の教訓
つまとたいるくねごやトつぶ身のとせのをとまぶくさますたの者ふの。
もどめとりて金之弟つぶさふ笑ん猫みさとありがご湘
とうろしとのあるとぶ用ふうめん金つぶんくとのとまと
きれ教訓きうと骨身ふたる人きたありがとんぶうり。

ぶとうりあうるるうとうしるるしとどころのあるびまるさけい
ちうるうきお者二つとたげとまず。あるとまだのぶんお身のう金大
世ごまる者生るるさしおとやうふるるしるさまくぶさう
切ふれ者生るるさしおとやうふるるしるさまくぶさう
まトあるるるふ「イヤ之しかくぶう。あるめまそちとおるど
ぶうふ。ちひさのとんくう若ふそぶちん兄弟同和ふくしし
うくう。今うとるるもかるくうるぶとしまる完まる稲米ふ
むんぶう
安分別の出ぬやうふよくいとまどりさぶうのト雑まる
いもかとうとけとどをとるれふ金之弟の父のおど遠さん

あず部屋へ入り。翌日出発の支度仕度をも
見ぐるみ旅の準備と落ちるのくとその人々胸とあるひとり
じとつひるぐるあるめの部屋へそのとき「さうざお亀
ちりとい気色ぶきつろ「バイるんざろうゆあざだで
けだ。やちぢり既痛ぶらるーさすアノあるとけざうぐゆあ
この部おえちぐらいさてのだどざろまちく人「さうさもウ源ぶ
出ぞあるるるぐうものぞさるとゆちるく人のさそ且ざるるるあ人
の旅をうるの日今夜うぐりるゆ夜うぐりるゆ。

解ったと絵ふとおりるくおるとトうとるるぐるるる旅をうる且ぶ。
おるるいとぐうーげるかるとあるる「まるとんる虚ちるり。
そるといちんの気やすめて巴どざろまやう「さうさいづ且あの
らのいふとい虚さのふどうぐモウ明日ろる居れ人のざるる。
ちんとうるやアちる人とぐざ。さるれおるちんぶいひるまちる
ことおめ人ゆおるる使とちるうぐるのるぐりるとの部とおる
あるオるるとちるくやるくとの旅と且ざるるとあるちるるるこの人。
りちの舞ぶ色男るる。首るるるるるるとんぶあるるるゆちる

なりのいうこうもいたしがたいぞさいらう「なんのマアなりこの
なるの夢ゆめそんなこころの持ねまるせん。こゝ業平さんがせまと
うらうんまるりまつてゆうさしやあるこふうんこころの元
の塚れごもござりませんヨ「しらかげんなるとらのこんう今
こゝろの富士のこれがごまるごらう「モウ〳〵あるらるぞそ
まうあつこゝルンヂやんをあるこびまあとげます「今うこ
ごつまあつるのくけもど虚らいひやうござ〳〵そもご信
実まこゝるこゝかるこん縁系とおさるのこ仮りとさるのこ信

あるよト脊とさまこびあるあるうまこく「ごこしがこの
まうふゆ行くさる系ごござりまこう。ごのぞさらことお役りを
早くるすうくござりまこ。トこびあうたね名殿のるこ
ざい〳〵かいいゆまごゑ〳〵ねゆ。ねのかこんのるくゆあうかい
金ゑ系ごち又変さる。うこふ拍りのみど元そうくるうち
用元こごく〳〵このひ〳〵こごいこ歩こさごゆく〳〵と今
いさこごふゆ流ふゑの殊ごも。絵こうるのうまこ元式
ごりゑり。又こあうあうこうこうこびこ。巡ひのお者とうう

共にかづらくも旅立と。今ぞ名殘と文を惜あるも共
お門送まぐ。あつう出つ金五郎の袖にすがりつく
まぐ。あるさまうえう人情別れの涙ぐひの憂也憂
かくまた姿いつたえんたるぬ

ふさん
金五郎 假名文章娘節用前編上終

額小三
金五郎 假名文章娘節用前編中

江戸 曲山人補綴

第二回

在所視ふ。お亀の金五郎が袖食へこぼりて後いとぶも
むさぐるとそ。さう〳〵涙を吉兵衛。今日や俊のるこのやせん。
まもるや寺伝ふ。あぐるの色日を指とりかぞへ一日く
ところ〳〵ちとあくまの事奉行まりも色て弥生の末の成
あけり。さまざまいろる吉兵衛やありけん金五郎の方より書伝

の父さへ死ねばひとりやもめ。あるいは引いをすいたるの不幸
が強食ゆへ雪とのくる嫁あり。ゆゑ〳〵金の弟子に取合
さてる物家のほさいて猶さく物つぎまさうとうえんぐう
うとさよりの無法さの名ふ行〳〵なるさよ稽古妹
役のかさひもせぬ中なるまびうり〳〵ふいの世ふろい添変
なる〳〵とのて今さうとうわらの男ねこいさり〳〵なく今は
日ごろのこのもこの平変さ人泣てうこのとおの人い千ふ猫
うく〳〵あるふもあ〳〵まぬせちのなきと父父〳〵然ふもかさ〳〵まび

ひとうんどうこのあ〳〵ぶ見そのあこおりのあこうのうくと能
病の勢ふふこの食ふさ人ろり〳〵さまぶ〳〵も即ぬまど元
より拓むんなけまび。あぶいんのきせとうちかとち一月二月と
あくまびも後の月もあいさで美ふるの行さとうこうこあ人
てこまびよく〳〵幸ふのいうもれふこ祝ふいあくまを掃ふいろ
まこうりさ人ふるの月の国果こうの教ひもかふのいれべせるぶ
へても楽かぶんいのそ測川へ牙とこぶのあて果ふんとこそは
ふ〳〵めと嬉ふとうあまぶと変ふるべあくるこれもふまく〳〵ふ

夜門さゝる間の戸ど。ふけゆく夜半の風ふくごとうち
さゝれあゝとゞろかふ。おごろうさ且元を。まぐりそうと戸ど
をあけうゐ人ど人もあゝねがさをいつぶるのまよひふ風のさを
りゝや。ゑゝ。その人の。ゑ系ありひしやおりひしも名まを浦猿
をゝさゝるゐとゝりゝ。ゐ名のれどをかゝりこゝ。まさうち卵さを
ふさゞびこゝゞびあゝゝこのゝこゝの耳ゐゝをゝゐゞうゝくゞりゐ
ゝまゞゞひて歩くゝこれゞ。ゑ。さを。ゐ。ゐうち卵せゞ。まさゝゞゞ声
のさゝるゐ名ふゐゝゐゐ。ゑ。ゐゝゝゝゝゝゝゝ。ゐ。ゐゝゝゝゝゝゝゝ。

ゐゝゞまゝ立さり飛さり。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゐ。ゐ。ゐ

まゝ　その日よりさぞうくとゝ云て東の方のそうち弥
根を添まねゝと呼まつりの四月ふ級まを殺も
ゝうゝうゝさまゝその川〈ゝ身と流めんくうつのごくふ
いひけるがこそ人ホやゝうりんと猫人と出ー水道落
ゝゝ猫ねさぶけまどそのの死数さ人云まされが今ゝ
も定業ゝんとやうやゝあまさゝめ家出せ日と云月と
ゝん七日〈の防ひさしひもねんごろふ泪ゝごふいと
ゝうの文さ恋いゝのゝとゝうく恢ふあゝさめ猫ゝゝの食ふ

帝ゝ文人と作して新〈せゝう。さまだ又食ふ帝の物ふ殺
又文さ帝ふ形ふ養ゝふふの且ゝまりけゝが。ゝりひゝまふ
常ゝふて容貌のゝゝうけさ猫のあゝふ猫ゝさゝが今ゝさゝに
給方ゝく。文の教へふゝさがひて養文母ふ養ゝほゝゝ
うちの猫ふの主。おゝふの〈ゝ乳ふかゝりまい文約
を寝ゝて。ゝうまゝゝの猫ふ落落ゝ一ゝ飛りとゝて呼むゝ
んと呼ゝ主ゝ人ひちがひ。おゝ者のまだゝとゝのゝ文ホあゝふの
ゝとゝうちまけて逃ゝさゝゝまのひゝう。猫ふ家文ゝゝ来ゝふ

[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]けよび。[illegible]家の娶[illegible]りかたことば
[illegible]のかまこれ。[illegible]ひ食[illegible]
[illegible]一[illegible]物[illegible]
遠ら[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]愛数[illegible]
[illegible]

り。かるところふ実父のうちのるみよりあるべ家の
出[illegible]方[illegible]ひ金あ命い強くと入うこ
るべ。雪中の[illegible]ひ。[illegible]物つぶ[illegible]
けたるもの[illegible]ひ。[illegible]男の[illegible]
[illegible]。[illegible]縁[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]出せ[illegible]
[illegible]入水[illegible]

四方さうろう是より後の金子帯もあるめぐる発せーとやく
めくり。家の振お富の姿も十人花ふいさぐまてまど工人
かくさうろうもるる花せるみ世。
月毋竜さとうち。変ちり秋も秋月の中旬ふいさまで黒
さいさぐん。ある日金子帯。酔狂とのの友達ふさそられ人。
あやいを天神の焼鳥とうん拘せんとうち連てさぐ五アり屋へ
つまるごの茶や寺四友へ色元七酒宴とちうけ歌技楽
ちんとねまみんぐやさうろうく大ぐさぐ。うこうち今春一コロ

おくさん〳〵コレサ　おくさがうちとうちとの間の下
おくさ「アノいやごショトーくおくさ。そんなふりだると看物がきたとこの子
まちなのん「ヨヤさぶつくなかんなんんとおくさとよんッョウ　おくさん
いつまぶ〳〵ちとうとしうとひのたまを。出れ飛切大格上
せり賣卸仕らぞーちのん声をとつかく〳〵「ヲヤ〳〵　おつな業の
ひとうざれね〳〵菓子とうまのいとのもけいをの猫やかれ
るらん「ちまちまするハヱヘら〳〵ヱヘ　ヱヘシ。ヱヘヱヘヱヘシノ
ヱヘらと〳〵日八「るんぶ〳〵。コレどよあるのごとをスト小間物

ぶんせとぶーちゃ〳〵茶の手ご屋「るぶもく〳〵。どうやア蔵見ど「ヱヘシ。
ヱヘシヘシッ。るぶのこうこ「ハテやぶ　ヱヘシ。
らうぶろうさとのいち焼ぶ二十ろうりみの碑牡「おさやアぶを
アハ〳〵〳〵日八「モシ　見和物なてらぶぶせんまし。まてとふどうもどよも
まてとふ実ふ物〳〵物でぶ人仏「るんぶるうもうの仏のとうふ
のぶ日八「イヱサあるるぶまてとふぶうの碑「あるるぶ女ぶ　收
へるぶうう〳〵やまーいう日八「いるるこうとも四接接ラかく〳〵。ヱヘシ
めんさんのお月ぶ二ッあってとくつとんとんとこ。実ふうとあ

さアらのうち醉「八〜〜」の人のようとおもつてうしろを見ると八月ウ一ツざ
つけのぞこの男ざるまつてゝの上の底ざるの人「さるうさるひ」モシと
ねようぐでうゝどは顔の丸とあんざの円合るんだのうく
綱湖珠の結メの再来モシ皇帝ぐ様のようんざうとあるう
人間毛ざるようとうくどのようで。皇八郎くとゆれざ
あくまくまとは鉄湯のざうぐ。流し男の給金ざ
安いうて墨い一向ふるぐれおげば白のありきとのんる
る。陳ていてぐんぐ仕まゝの方合世帯とのん乳ざる。

アるげかりいぶ愛敬のねん女孫のるさうそんなに面おぐど
月八「ゝゝ」さるい分の遺恨ざあるく。おまぐ新の相ろ
とまるのぐ陳りの宝とかぐんるようみ人の底気と底痛ふ
痛むとんようそどおめ人も苦労性ざ。ゝとゝ男のいめ
ハゝるみまるのでうるせんぐ。ヲホンゝ「ハンあうさまりくざる
ちうぐのコウ戯作いおどけざ見本幇間とさゝけるあるの
金まうけの節がまるぜ。九月ふるると「るぜゝ」「ようく考へて
こんさうゝ宴見とのひはめんと伝「八月八ナ富ぐもどるとい金うノ

「ヘン」神の強へ神ばの寄りぐるゝよ「ハヤ」神ばのまろ
めつちも生姜。ヤウ〳〵ハヤとぬるゝやアグ。コレそんるゝ雑
非と有てすくいつてゝ。是でも女ゝアバグ〳〵ミるゝ男ぐよ「その
かゝるかゝらぐ〳〵まとゝとゝあるめ人ゝの顔ぢやア「そゝ」顔
ゝやまゝゝぬ深ゝゝやゝとぬと「ゝゝらゝとゝとゝの月ゝ物
〳〵〳〵「ヲヤ」月八さん今月八まとゝ月ばゝゝ「十二サ〳〵
ゝゝ程ゝ非ゝ無ゝ弥ゝ田丈姫人ゝ編ゝ答意ぐ「十二ゝ月ぐ
田丈野人ゝ。是ゝゝ年房ゝ月八ゝ時ゝモシ金

さんとおつゝゝゝ

器のトッテトゼモシ長ねぎ今ゴモウまあ人真名鶴さんがあつて出
すゝよくお辞儀をあせ人実ぶびのくりあのさもどねずこちこ
ちこ
ゴ紙のイドもうしたりのこの所ちの弱よそうぞの不来夏
とやとさとのぷうふう油ゴとさるゴ。ふそんやちゃゝぶちの
めせ。おこのつとらの紙のくうもとふそやこれちんゴ 紙
にるふるゝ上ニア。ハテゴズんどこどんぷゴんどこちんぷアセう紙人のこ
ゴまびむアワハウハゝゝハ 辞牡「コやくまゝ山ゝく高べるゴ。そんゴゴ
どるゝと天井の燈ゴ祇ゴ多旅とゝ魚の花ゴどゝ出ゴだ

らう「遠へゴぜせん。酒春姫ゴ狐ゴのゴ川物ゴ
引出さと。ゴ物猪の出者ゴつゝとゝ現ゴゴのゝうとゴとゴちち
ゴゴゴゴ。さんゴ化物屋ゴ元のゴうゴ。アゝゝゝ上鶴おゴどけゴい
のけゴモシ屋ゴさとゴゴ紙ゴちゴアね人正真正猪牙家元祖
ゴゴゴ色外ハ文字ゴゴゴゴ。アゝゝあ挑灯ゴゴ出
ゴゴゴ人ゴ「ゴんゴのゴ金さんゴあゴゴゴ同利ゴゴゴ底
ゴゴゴゴ

[illegible]ぬく[illegible]あれぬ[illegible]の姿[illegible]せう[illegible]ぽ[illegible]やそ[illegible]とぼく[illegible]入まぶ[illegible]

つ[illegible]せみどごとやうぶ遠[illegible]やうあ[illegible]ろ[illegible]ても月[illegible]と愛

[illegible]

殺ある[illegible]ろ[illegible]のよく似[illegible]自[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

の迷ひう醉さる由[illegible]ろと[illegible]遠[illegible]こ[illegible]と[illegible]詞[illegible]と[illegible]

[illegible]と　醉「コウ金さん。お[illegible]人[illegible]のごろ[illegible]ぶく

[illegible]間　醉「[illegible]金[illegible]のこと　醉「[illegible]

[illegible]

物業[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ふ[illegible]ても女[illegible]もげい[illegible]

も[illegible]者[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

[illegible]ろ[illegible]ん[illegible]今[illegible]醉「[illegible]

醉「よつ[illegible]ぶ[illegible]ん水[illegible]ぶ[illegible]子「[illegible]の[illegible]の後[illegible]

[illegible]ぶ　醉「け[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]人「[illegible]

[illegible]ん[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]醉「[illegible]ぶ[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

緋縮緬の裏掻つた。ひとえものゝ方ばかりあ紋
天ふ　ひのごろくてんの振あい世の事とゞこ[illegible]
巣ごとと打ちてつまとり　[illegible]
り〳〵ゆやまとうんーゝうへうぜ　記てあてあてうんぜあへせア
用とおさるーるんート　[illegible]
るふアまるすてとうるゝまる　「ヲヤあのうんいうの
でもようとうみさまこべらて出ーぬけふ　記さまとちやアまう初老
るゝ　「ヲヤーいやでおまたよ　「さゝどうとうこうまーの

すうみうとうんい可愛ゞゝまうみへのいあうめさ　「アレ
さうまるアおざりいせん。おれおさうさゝあ[illegible]るんート
子て出ぬ分おゞい　「こまいは孔雀ト　「ヲヤるんざんまて。
ひゝひさひいて
ぬまるアるぜてんみふ顔だりこんるんまてんぬふてんるふ
こんゝまてまて。恥ーくりいまてヨトあうり　「ヲヤまてふ出深
ざふまさうしてんるふもよく似るあのトうまさうまゞ　「ヲヤ
るんでおまてん似いあさてんてりやアーまさんふ似いーてんトう
こうるまる　「ソレまの笑ふかんゝゝ物て恰好似さてあうゝ

ふうさ
瓜を二ツ取りてくだくその後まもなく「ヲホヽヽ」とわらはるゝおそよ仰
ふかとあつせんさぶ。誰か仰ふかの。そこ見てお供せるんしまい
さ
さ
さ

遍でのいかなるもうちやアおざりいきあん「そりやアこんな
こうちそのいとこ二河の流れ二樹の蔭位生の縁ざあるまいごとそ。
かりこんぢやぐまるこのいとのおあんざうりいとこうるるこうこうこも
根ざだり通ふるるざのの時分ふ突出ーちやア根こざよ「ごよ
ちやアぬと突出ーいちやうこそ且こそ野ざあるりイせう「
それいそいとこいとふも他人の空他とのふけ且ことふも他人とふ
りいとこのいざおあんいちアうこうこのいとこのいとこ位こざひふ他ーて
きこるる「そりやアぬりとざんこうこあるるるいちいせうる。

第の人をあるーいちこうぬふ乾おとうこる且とのせう「そこうおりの
もむざいのうとこの廓へ第を流るるの仕合がよくつて来さるのの
祝へこうるふ恥とのいざい位ーてこうせてもいざやア祝へ「
あんふそこまもそうこおこそ子。そんるるるあこ位ヤレいせう。アノうこ
こいまことあるくちをくの園でおざりいまよ「ハテ子そこちやア恨
夾松おうる行毛の果こうこも来さのこ「ふるるこうこうこうまこ
アノ上方でおざりいまこうこうこさ「フウアノ上方ハテナるんとうある
アイそこまざこうこちをくざこチレいまこのこさ「こんの上方のいまこうる

きまくみてゞあるものゝハテ縁とのゝりめいあつかあくさ。さて
もそつぞり上方ぜんろくさ「ヲヤ虚とあつたるんゝるんのマアね
るんぞろ上方さてあつせんゝても。上方あ衆アねのやうみい所な
あるさいあざりいせんよ「さうさてゝの根を不完氣を性命ハ
ぞの間ホあるものゝそゝでおめい上方のり珠数屋所の遠ぢ
やアねゝ「エ。るんホさうでおざりいまヨよくぬいあつてお出るん
まそ子ゝの孫数屋所の六兵衛ゝ手ゝいまそ手ゝの表のむすめ
「ヤそんるゝアノ孫数屋所の古浜屋の六兵衛ゝのむすめ

であつさうアノおめくゝド。あまそ十ゝまの表ゝ所のゝ人いさうみ
年時ようゝ。初ホいろまあ表ゝ久ぐゝ所ゝ表ゝ久里ホ思ゝ久。
やく旅人ゝるゝとろ里親ホざまるゝ表ゝ久ゝ年ゝの大体の
若異ホまゝゝ。又六兵衛ゝ表ゝ久ゝ表ゝ久ゝ表ゝ久ゝ表ゝ久
ろさゝ人の珠い菓の上ろゝ陸あ。おろさホりらいまを言つて陸
けゝどのひホ一度遊ひもせん。便り多ゝ多ゝ表ゝ久ゝ珠ゝ
りゝゝ多ゝくゝのゝかとおりゝゝゝかひるゝ多ゝ。まゝあゝ表ゝ久ゝ表ゝ久
ゝるさゝゝとゝ表ゝ表ゝのゝこゝ表ゝのゝまゝ表ゝ表ゝるゝとゝるゝのゝ金ゝ表ゝ

繁くてひとくさるべし。我とそそのくらう妹の妻の文を見て
きるるがごときるる時より妹あるあい吾子と性ふ人とあるべく
いまぐ桃いかいさるべし。ゆゑ妻女の約束べく中よくべし
そのうちふつまえ代地の叔父の形へ人を乗也その波
ゆゑ。おのあい家出し果るあやめ方のあるまねその祭。今
まこのひがけるべく。梅のあん身ふめべりべ。今青梅のり
あのこの。宮ぞりつるべる血ちの乗あやべ代ふ
けりとのちべきう鉄物婦見べ。ゆ〜〜狭く真名鶴の夜

ふせんと楽〜こ泊〜。呉一人の妹まべ。世ふすき人と性べふ
〜さいとべいやまさり。ゆゑ泊ふるまふけり。かるるふの涉
かべねゆ中るまべるれさふ〜べふ子のべ人のふかべりあしねされ
どもこべひふ一ツふ麻べ。一上金ふ帯も妹ふ亀ふ女夫の約束
せ〜てるまべ今さべその無ちの婦ゞ流まの子とも枕
かいべいさまべふりしろめべくおりべ真名鶴のまこそのゆ
西条さいべ男とふべくべねべ。第級徒ての死〜べ妹の代表
ふるべんとふふべ〜べ。ゆらりさそそべ入べんべ。べるべ〜金ふ

屋

ちのまゝにすてゝ捨らるゝ事なれば。もとより屋の家のごとく。そうく真名鶴の処へ通へど。決して抱とゝろかせたることなく。酒などのこゝろ悪かりぬ。かゝるその月すゝまぬ八月のすゑつかたのことなり。何のでゝ。ゑひ〳〵の。俄狂ゑごとりなどさまゝ〳〵ある。その中に。額像やとの。茶屋の今度かゝへの藝者の小三つかゝもとのひさうのまゝ。又所にまれる。宗良の名。渉間のとりみのゝ小三傾城。体奥州の仕立衣装着つけの美をつゝ。浄瑠璃い登こゝ。本阿輪たまゝの人の耳目をおどろかせとりの名高中での大評判。そうく金さの名。稽古の月をるがあつて。俄をゝ物るゝまでゝと例のごく守田屋の三階に。真名鶴とゝ花みさけこゝろ。今や来るゝと待あるゝこゝろ。寝るゝ。寄る渉月の踊り。幕おりの花見の上ろり〳〵。あきのゝとゝ系のそなへ人やの三衣おりしるゝこの一ツまゝ小ぶ及そろ人てゝなど。けるゝ月の彼のふくまゝ小ぶまるゝこの清とあぢやとん。もいやう客ふ見沢奥とぎゝ角男のゝ者のトかる文句あつまた踊るふさんと金ゝ弟い何ゝ。ゝ生ゝ小ゝ花やとゝ小ゝ

家出して死して名あるあるべし。すべて遠からぬ顔ばかりこれいかの誤
まるべきなれども世間の人はいかなるわけど遠からぬ是もうぶ身の途
うとうしひ世にいかるべし。外の女と思ひまねばかりや浮名をうつ
を出し男をうらんとの厳へ。みげてあるとかやとうり氣
さまとび板をあく。さりとて人不問の異るのさうりやうすを
こんきいめんとそなへぬうりあるまとび結びるべが表こん
とをつ「イヨ」涙の本作ふさ。月八「オヤ」外の決して
愛人せん三千世界のうとこ人り「オヤ」ねびびぜ。涙

むしやれむ顔憎の大の美格ありあるの天上あ。涙屋根
の再来。三間一の妖顔「さのそよあるのの賄絵でまの
やア来ぬ「モシ」月八ぞる賄絵どころ。けかまきの月日今月
も文五章の物くい。ヤモシあんなうの美婦人ぶつけ為を
まるのびのがせやまてのさ「ヲヤ月八さんきのこと。十九文
のこん年さんの中うみ。うぬるまがぐが涙ぞョ示く「月八
きの振みく。おとりとびうい弟めいのがさく振のびおもれ
るの「ヲヤとうしおくまきさんとちつとちびへみよ

モシ旦那アノ小三さんいま。上がりなさいとのどうまわりまいりさん
でございますぞ。よく〳〵早くのこと迎まりこざあやとさいませんか。
さいふうとんざ遠くく〳〵貴まで来さの。大うこ男と大騒ぎも
ゐて。其男にうく〳〵まさのごらう「旦那きちのあのあの人の判
ぜん
殺の通り。男とさるく〳〵あげてまさがそのの男ふこぶこうさまと
て。流ゐへ流んざのでこぜ金すッか「ヲヤ〳〵大こまがうくとのも
さうらのあうけんあいうんえのせん和人のくさこうぢやゐあのせん久
金一あのくんいさうのけまどこ。そうぶ猴の小銭と小猴由めの

ゐるく〳〵ね人世の中さの二十ラく旦那。さうちの人軟ちあゐどせんせん
うさこくーがらのあのご額金へ女うこ俗ゆく気とつけて二人きう
こうぞまこ〳〵紙花ふるまひの物ゐ物ゐうさ考吉声いさらやうあ
て賞のさんぐるぐく多委でるく〳〵たきこそ色ゐく〳〵色紙でゐ色
んこて祖がよく。鴨川のあを度湯ふあびて。京あ〳〵ろいたあ
ぶくろ小入こ。ぶゐ小ぶびこ美の美女さ子ト 此表紙さうに一モシ
旦那額金の小さんをこらうじまりさう一フウゐのんぐろうくうん
ゐのんぐのつのぞ美婦人ぐさうぐの「さきうんぐぐこまん先

とのごうでの義者ざとやまする。金箱をかくせしこと。
のそのうちも金ぐアノふさんとそ面ざーとのひとりごうこまこの人
いもりのふくも牛おき
べ。あるあのよもあ遠いあるはず。直名宿ものうちの人ぶ
をぶんとぶひーぶるまゆあーこさみふ語ぶまん。縫ぶ組ーた
あーーーーぶがりぶ男のこあふ。ぶをぶ。ーぞちりかざ
ーとさあぐふ名ーた。今宵いちうがさた用ありとんを
そふ座ー谷さうあげ。表名宿ふ別ぶん大門をぶーぶ。
怨ちり又えたう入。ひをありふ顔俵屋ものべふ清の処金ぶ彼ふ

さんふにとうたん。二のへあり酒のこちりぐーー今や来ぶうたとあ
ふ程あくふさんい儀とまうひ。ぶうぬ顔ぶそ行ぶるぐ。二階の
ぶーどさとんーーとぶりありた今ぶ弟のこそぶ人ぶ立家顔ぶ人食也
ハツとたりふ終るさあいたぶとんとさるを今ぶ弟い見ぶうあげへ
コウふさんとーーるぶ近る。乳陳ふ客ぶーーさふ入らぶ人ぶさぶ
さぶぶいけさぶ。あのいぶぶふそぶーぬりのこうとすぶ。
こんぶびーーりよりやーぶそれいぶあ人ぶの。未練ぶ残のてぶ来ぶこの
ね人笑ぶうあいりーーりやふあうト。のいぶそふさんいりぶあこたぶんーーん
ぶそぶるくりんぶーーるげぶひぶ。

[illegible]「コレあいさつ[illegible]人面目ねえの。そのざまハテ
雑巾ざま宜敷。かいつ男のこゝろ[illegible]
とうりてうろうよ。大猫でもをまを[illegible]
おるだ。をまをふるんざまの[illegible]
上ろ〳〵六月ら[illegible]。[illegible]の[illegible]
恩を仇の大[illegible]。[illegible]親の[illegible]
ぬ狸めよくゝ[illegible]面目かぶ〳〵[illegible]
[illegible]とべらるとも[illegible]

の文武の[illegible]。[illegible]の街[illegible]
を合して[illegible]。[illegible]
ゝ〳〵。[illegible]文[illegible]。神[illegible]
牙をなげて死んざるとむとゝ[illegible]
四[illegible]・[illegible]
仇[illegible]
門より一ツ[illegible]。[illegible]
とおり人ど今[illegible]の牙の上[illegible]

かぶりて、むかいまうせるひと。合乃とうんその田向に抹香あるこれ
いぞりの。万さらーやであるるべ。彼の新橋ふもあるらとん
ごうふ引うえて。生根のこうこう恵あるこれ大切る祝とう
捨て。うの古根へ水に流す活業ヲ貴女ご第業あと髮
のかざりの掛算ふたるあるこうあり。長唄者
後ちあり唄や。一中ぶしうあのうこう見うえようふ踊とたど
つて客のこぶんとるこ言葉人も遠いの物も毒う恵はあ
天上あ。モリ〜あのたのうーときあご頼とうるのもあくあら

あとうのあの見ぶぶぶ。御多法実法乳とうを上
のうはちえんとちをふさんいちぶうのふ
るさふあるれるぶこあるりがこでもあそまあ
。ぶく彼てごさらはこうの指あとはどんでるのうこお接とお
立あるぶたもさとあの理ごきりまちん見あらうくうう
い釈が一ヲ沢もあらく業理のあろう。けるとあそうやあ少
身やりさるこ。ういけ〜ぶけこうあさるこ人うこのいうこ
せんぶびのあいかうこ見人あよう〜ぬあうこぶ。記のく愛庵
極地。今月の今まぶ日まらこぶもうあるこ同果

ごくりとこれを今一度あるこの人さうとあまるこの人の
入ることむこの花術。そもそもつくりうとこの者ふつくひ若男
本望と洗やく船や人やふ乳もつて一生やうほどいよの本ちう
ぞ一の文句あるこそんなせりふいぞうくねへ流行云ふ座
理をつけうるふ合のぼがとびもモウそのまだやそうされ
わへの一さあうぐいどごりまやうがぞんぞ情とおが思てうさ
一言ゆんことおぼるまとうくぞさの思こそのうへあくこのかく
も殺ちゃりとお振らせ。但後多あぐのあるさまを思下タと
みげうけてまぐりとあ。あこうこのつとびるあそ金あ弟母
さそとぐまさとびとくいうあ。あくくぬふ三の工面名。とげ
あく久ちも殿らまるび袖ありくくくくも身をそもけ。洗ふの
酒とを酌みて茶うんふうけくぐのと呑こをまつ〜とに
ねあるびある

假名文章娘節用前編中終

假名文章娘節用前編下巻

江戸　曲山人補綴

說堂

第三回

當下ふらい狗をやろう。洞と神ふぬぐひつ。金ら帝の例へさーろう。今さら実でやーまーても。一且お疑ひと交まーこまべ。傳ろの名ーにまのぐあるさふお別ま中てようー。一日什時ままーまませ。泣くあーー吳くーーー。いろとかるの日をかるも。やがて家人驚つーーーぼふまーと

あつまるつぼ。そのおとをかぞへて。今日うぶ日と指さうて
まんで一日も十日のおりひも。明くれも蓋てもお役なく。一月
こち二月過ぎ三月四月と日へ重てども。風のさうのおあ
さへないてこてこてさうちふこの春の終生のころ日さへ
こまとさいこまいこまもんこの八日の数もあけてこうの家内へ
れ藤ちづまつくも。ここうてだうり目も食ぎこうこと汐すあ
ぞうこうこと必ひまいせびいとでちく。さうこうる終茶あるこふ
まど捨らまこいせぶこのこうる。いうと死ものふう果ゆうこと業ド

まどこたりまず扶ぶ。関の戸とんくうちこうこふさんくこと
あるこのおこあこのこと捨ーく戸とあけてこんこどるんすあ
の雪こまとあもこのまうひうこと。まこ捨ますること又こんくふさんく
こうふこあこの三度四こびこと。ここあるあるこ名こうこんここ物
まるこうこまこうふ名で合点あるあるこ途方ふこうここどるく
みじく夜中の陣の寺のあこを先方こたうこうこうこうこく
指せるこう。扱うこ月日こ送りまこのあこびこーく苦集
るこうの月こ死んこどまーこあらふこあるこあこりふこどくこと

首をちりとうち身の毛もよだつ死神のつのて死ぬ
のをまちめまするのうえてもあてもなく落つたうまをこすまえ
ぶうくとあとをぬけ出そうつまちこのあいさつぶり
あうこんだうして身を投げ。加茂川の人ぐまえをと近所
のものふり上ら見あき返しこんまうさとうが顔もこん
ちゃぬこい男がせげんとあうこの人男をとうう
だいうくみあこいあうこのこをとの人で。抱見て森るうの人をぜ
うとのいまんとうさあたううーさ。いうくみうびえーてもいい

用だうりいうーはこ。ぜ入をのあの。無理非だ。この人で身をけず
まうこあるこ。舌を喰てみと果まもうと存ーまーぶ身
を投てさ人動るものとまぐ命の尾をぬとうぐうでとあへ
ぐうあるこのお顔をうう一度。こんまーこう人で死ぬのと。
おりのさむの通ーはこう。この悪相ぶりのことうびい達いた
勝へ貴ーう。金ぬまるこあこ中まぬ運ーうく
死ぬ。悪者の身ぬこうまとうぐうのこ人へ
ぬまこのぬ返をこ自あうまーうぐ憂の間どう

位なるゝ。大僧の扇い朝臣ふ。人の入りこむとうとう人びと人
身と流めさるゝ。まるさふめゝり逢のまゝとうるのことを
仮りふるに。位身のうのおとらさんとおつん長中ゝいるけ
まゝと。ゝ一つふ詮ゝるゝ。とうゝ。この頼俵史歌故ふうゝ且
くまりはゝぶ。おのひもゝゝたうゝ今ゝあるゝふお目ふかり
きくあまりのゝのうゝ且ゝさふ。あゝ人のいゝゝふゝまゝゝ私
ゝ花後の考へゝく。不調法でゝうゝまゝゝゝ。ふ恩ゝるゝれ
ゝゝうゝは。猪ふあるゝふ逢ふたうふ学ん朝のうゝたの

昔男へ身と流めい流めまゝうゝ。今ゝうふ目ふかりまゝと
まゝふ身のゝゝゝゝゝゝく清ゝるゝうゝふゝゝうまゝ
ゝゝゝ大切のおゝとうさんと捨。ゝるゝぬゝふ身と清ゝ山昔
労うけゝあるゝふ。山勝者をゝうけゝゝの身いうまゝゝゝゝ
ゝゝ且ゝゝ。ゝゝゝゝの世のゝゝゝ。今ゝまゝゝゝゝゝゝゝ
ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
身とゝゝゝゝゝ。薬ふ似ゝるゝの潔白。昔労ゝゝゝゝゝゝゝ

う。不便のものやとて、男の子の子を見て、その子を
もらうべんと返事せびん。空腹かさーのごとく
り。あること見れば、どまでやすのふうこびがを見て
ぬう。豆。豆金子弟さんへ。どんぞ。ほうあそばーて。お知をと
くござうり。あうこびがを見ますこと。こんの
ものふ。堪忍さるとやさーのお羽お使せるすうこび
さうり。よよト。おるふあるこのもものあるの金子
ひあうこんまの。金子弟の例へふ。行ばるる指図をまるせぬ。ふあう

ものと。拾ごうこんうより。金子弟いたるあるさん。うあさんの食べ。コレ食の拾
さるあがれるの人おごーのみ物三味ーと。のるれのるがーふさん。一至お情
るのるのおーこもも。女ふがるーふ人おどのこのい双物が拾ますせ
うう。そりやあんまりでござりまんるんが。あるるが男でもお情
るのお銅銭でござりまふ。これどるをうけ。ーでお使云を
ーまんふるるこ。云のおへんーもるく。あるるくお見ふから
ぬとん。そんなふもーアコさーーがあるるおらあるるうーー。
つまあるこでもござりまをぬ。こと女夫のうこのいせんとも

一旦ものおかしく。戯れふるまつるを存じもよらぬ行
末多うけて女房ふまるの。二年や三年遠ざかりのかりの
ものの。紙を出さずふ絶りとまるのと人だのうりと悔し
ぐ。ものうとぐ年あまりのあのごふ。振お初の変り生
きのあんまりきこえぬまるこのおびどうだるのまりふおきひ
るこまびるふと楽しこふ今日ふ日くむふ命とるぐ人
まをうつこくぐるに後でせあく一遍の仕向とやさ
処がおいやのれこにまるまるひまずまいこまのうんな

約束どいこくこふぐりまをあぬトるを今はまこまひ
まつこくこん後悔をるをるまるまるどふあくふ思てるるる生
るぐくへて後のせまで。人の和上
名とまをこにあげまるるまるこねまうふおどり
名若あひたくふ残くこうぐ親父ふ孝行せうこのこ
ねう。稚ふをるこの男のう人ふ。世家へ貴まに来さこ西ふ我
あるくぬ主人の暇るりや今ちに死にくるとうま今雑
義まのあまものぐまぬ中に雑義をまるの死い一旦ふ

早く生まれてこのかたこうくるぶるぬうコレふさん「ヨテそんなうまあるまあるうるさいひざそなたもさもしもますのう。そりやあんたうそ虚ざ座りまもちろん「ウソいろいろ虚とうくるめう「ヨうなたもうございつまもます。そなたぞちうと紙ゆ落ち付きまるー

金ちゃんも男のいぢわる

とやうやうぐとたもあなたもひつけそ順ぶ技封間とよびぶすると。やどうくるーどゆくと来る「ヘイ且ねるあ後ろ一別ご来とと見ざん来つまうりませぬ「ゑんみ月八公さうゑ逢さまんまぐ月八けの「ホイさうでありほうけゆ「大きくぐり月八公それちゃア

先刻已来とのひとりの人「ヲヤ上様おゆんさまのチラシとぞんじ
まいりまこの穴へお返入なされ子ヲホ〜〜ヲヤふこさん
見いおそやうさでおそびとるきらくト
ぎをふミ「アイ〜今まいりまこ暑くらんひうち
より汗ふきりまこさよト
ふおの〜〜いまぎは入門ぶこぜ入ませんね。モシ上様やらぐ上ぶちよ
つと勿役ふ立ませうトいふ金ふの「十ア二月下の巳と号さ
まぶ申ものさちらこぶたみさとしぶあるる〜〜ものらんの処へ初役も

さそれは門ふ入まふ吳のよ「ヲヤ〜上様いおのらんふかさい
約束とるまるこだやアありませんえ立ふアそんなを
十二月今ふ宮ふぶうりせ入さるやアあ。其名桜も修ふ入るのに
まるくそんなるこの備番ふて諸ふ酒ぶ順へ〜ト
「さうして芋業とあるくぶこのふ色つこあのこの中ふ外のさやく
ふあの捨小船トうこのこあ〜ぶあ。あぶりく。あぶふ絶ふの数ふかい
見ぶこあこ〜ぶりのこあり順上ぶこうぶこさんぶ立まぶこ
小三いうふ〜〜廿八日八小三の月八「コレ女房どもふぶヤアこのよふ

ふさのぞろぞろと深〳〵ゑゆいのゝイヨ筑田屋ア「アレモウ御ごヨ
おくびけでるの貝ハ「コレナるぜたそんなのひんぢゑんぢるのご人貝多
ゑてもごイのろさうゝ〳〵ハテさて絶んるるてびあるどおまへとうとさ
しのその中いまゝねへあの子エすト且那 金「大きふサのた在らの
ヒ ゑハ男ゞ撫べごそうでるんゞ別深のねへおとてもちろそ
つとハのとゝ彼ゑのゝまゝと「さうさゝ久今自いどゞゑ
ごさうでまとゝかゝさのでおゝるるさるゞどろ屋アなゝ釈ゞあり生
せうト けどゝまうハのゝ金「さうヨ大きゝ色男ゞ待てるのとう

ちゝ修ごでとゝでぞのくゝとゝでぞらうどゝなおとゝゆうゑのゝ
ろんゝ女ゝ屋アゑ縁ゑのゝ。兄弟ゞ分ふるたりゞちの世人ろん
ち屋ア面仰ごゝ芽〳〵 是へつのでらんゑト ゑゑのゝ酒ハふたるふさんハをゝ人で
「モシあるゝでゝあんまりるゑ是ますぞ人 金「るゞ酒ゞすたち
屋アゝろのゝ「ゝろのとゝハたゞ屋ごゝうまゝんゞあんまりあゞる
とおゑの毒ゝろゝごゝけてあゞまゝう是ますゝ屋ろゝ粉のゝ
くゝみさんゝろゝのておゝんゑさんゑよトかゝまゝ「イヨ深〳〵あり
がゝゝ太藻おの再来ゝ。ゝゝゝ屋アゝゞろんのようゝ〳〵貝ハ「モ且那

つきしご月のこりいせんぞ。ふさんいどゝゆあのゝんゝ似ゝあるこ
ちあゝどぜんまいんゝト今ゝゝいつぎとそゝゝとがけ 「十二ふさんがどもゝ
トゝゝゝゝふさの顔をさゝのどけびふさいうとゝさゝ形ゝさゝふたゝん
今 「ろんゝのふ足下の月のせんぞゆれおとゝゆさうゝんゝろゝ
ヨ。他人のそゝゝ似ゝあゝゝのふふさトゝゝゝゝふさ 「どゝゆどゝふさ
ろうゝさゝしろんどろ 今 「アろんどろひどゝ酔ゝまろうゝゝケエイ引コウ
ふさあを一ぱいのうゝそまてんゝゝトそのまゝを入うちふさまのゝ 「丑形
り。モウゝゝゝゝさゝゝお迎ゝゝさゝる子ゝろうゝゝゝちどろまゝゝゝゝゝ

せんません。モウ一ッ献ゝませう。モシ丑形おゝちゝゝアいけません。モシ
丑形ゝゝゝあゝゝろうモウおゝゝゝゝゝゝゝ月ゝ 「そんゝゝ。モウゝゝゝゝ
軍勢ゝゝ陣を退ゝゝのゝおゝゝゝゝゝゝ 「さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 「ヲヤ丑形ゝゝゝゝゝ月ゝ 「さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あてんなさいるを「アイ〜合点でござります」ヨト、あるの引ぢ〜へて下げ
女かのまんなと枝を持まり「モシ枝とおさせやまをうな人の今あるの
小三の擬をとつとつく。小三ハうちとを呑こんで「ヒ三うさうご今お紀
中に上ちうちうを又を出てのてあてを」ト女「ハイ〜かしまりました」ト枝
白く金の弟八月を四てあうつこんまの枝をを又ねとうび今へ
七度月の由良とのく針畑ごサアりのとうち人よん今ト小さんのを
小三「まさ雑うまあうまます」今「るんのとのうをんを枝等をのの
がるるの。但のいのうをををく有人ヒ三おるるのおうをうがさけ

まして猫しのとうを上のどうのうけそを又ぬ。むがりが出来はさ
今「そうやアアア

つる雀さんの狀もあるとゞやつたりするものとのやさしさ落ゐ安
ごみの情の主どさまゞ女の淋さろふよい奥ざりいてあるまと
びどのようなことであるこのお名やまで岩男うみてもあります
ることを今ろうそまゞさんざう勉労ゞ人びかるもうどざうます〳〵
ゑんのとうさるりやァあるいいそんゑ苦労を今ろうさるとて井
で蘭が笑ふふよう。この扇の立ごとのうてもゞひこんごろ男の意
乳此扇の接をやぶつてう名うとのいまさの名効法づく。
ぶ真の名雀とおまゞ中ゆるの別深であらうと二十ゆ

扇が立さの。牽牛歌枝ゆらいいとゞひゞ歌ゆ出さゆろう。
物て通ふとおりつてあるまゞこれゆやァ深い根ゑゞあるのヨと云
釈の外でゆねゞおゆゞ家出さること考せの狀ゆがつろ
ゑてさの世ゆ望ゑゆ絶ろうゞゞゞ

とをでとうと云ふ。おやのこゝろ思ふべし。先の女のもの
うつくしく一ゆくとくさとうち友達のもの〳〵絵巻と
見物のまとひ日ゝ丁度真名雀の宴出の日でとりぐみ美〳〵
いと綺麗なる多けれども似てあるとうを見ひらそこと
みちのまく八て似さ者もあるものと寄みるつてようそこぐ
ぐり紙とうとうひとくしく。和合の喚くうち さけて
さびみ身のとあて〳〵知似さのもを狸お雀とのをぼみやう
まさ六ら来どの。恵順様と性てびつくり妹のあるめい知くと性

せびお宴も芸の鶯ぞ泣つかとちつまのまをまをまをまを脇
るの備おのを。妹のそるこ示ひ中を第級ろのまをの乳性。
あまとをまを又おめのまをみぐ。知まねをこと妹の長名雀と抱
ても様ら見ぐとのみてうん捨るもかを見ねをこ。妹のよくこ示
寄みるのを。まるぐく力にるらのと約束として通のの名深い
相をのあること。雑一人知る者もるく。今日まを第理をあを
びみ来このョとをぐ今度類を加への長者の小さとの人が
法号の通ることをおどるとのが。扇中での陸一とをぐみ評判

まると守田屋の二階で真名雇と共ふつ全どもそのこゝろ遠い
ねぐどうのふとでこの扇へ遠路と隔てまてあるうと不審ふつく
ぐ新間どうう男のこゝあふ男と寡さの男と近さのるんの彼のと
い残少くこの拘ぐこうさくぐりふ後がこうぐ心のこうりぐ
女のゆうりむのこうるもいまくしんとまきこゝめくうんぐもれ
のこゆ名やうだり迷ふ心の愚癖こゝるんぐも実名と紀
こうんぐもうくゆ赤うこおりのくこんなふゆこゝ中ぐ抜ふこふりぐ
こんかくくこうくまんうんまぐそるこふ遠ひいねぐ新こうる

ようあのもいいぐふ迷ふこ狂後がこうぐ今のゆうふりつこゆ
理ぐやぐあるゆくのかうむぐこりるこゝふ真名づるこふ義へ峰ぐ
兄弟の名のりとさぐくゆるぐゼト「エでそんなるこゝアノ真名づる
さんいここゝの姉さんぐどこうくまこゝアノ姉さんぐ今「さうヨ正美
正弟のお女の姉よ「エでそりやアうヨこうぐどこうまゝすこう
この微妙まぐんドまゆんぐ渉い女のこうこゝりろく愚癖の恨
エこりのつこぐこのこゆ心こゝいこゆ。又姉このゆやゆくるヨこどるん
の間ぐいこうゆこうふ兄弟ふこうぐこぐひゆこうけくはこゝひ

つくもの流れの身をうるのうるをなのうるひつるをなるーの
うるとも。江戸両親が草葉のうげうる。ぢゆるをうるをうるを
まるをまるのおるトつくもの中ぐもるををーーとらひるぐ。
まみる　真名鶴さんい私のうる吾妻みをうむもたちをもるいををるを
引うをうをしいらうぐうるのひうう。ぢをんの深いおうをうさんと鶴
おるーを出つくも我身でうぐ身の愛おもをもつたをを
をぐうをの面見もるの身でぐうをまるをるわどをるもるを
もぐ。ハテ何のもをんを鶴朱ぐおをるるのうをうぐ。

そんなをとを苦をるををを久ーーぐうぐう。濁ーーんぢのとるうう
ををでうんををおいうぐをるのうけるををぐ。真名雀とおるをとを鶴
おるぐるーぐうをうを入いちぐん。おるをのをうぐうのくーかちう
ヲホーーそんるををるのををを計をど。帰さんとおををさんいどをも
ををををををんヨトをるを癸食「をのつアおうをの帰さんとおををぐを
をるをを「ヲホーーぐをるをるをりいををををるのぐををしいどを食
るんのをうを癖さらをををうをハイ食「ハテおるを癖ひぐう
今をぐをうをの通りををのををを陽ーーをををうを二月つをるんをう

かうとのぐ〳〵迄もあるんぐぶのぐ〳〵迄もあるんぐぶのぐ〳〵迄もあるんぐぶのぐ〳〵迄もあるんぐぶのぐ〳〵迄

さて〻真実能ふつゝ人なまろぐあるもの

一ぬ

い思葉の外ぐとゝのえい秋の空とあく〻おろ〻ぐひりのぐいは

一ぬ

ぐりとあんぐア芝居でもいさ〻ますお事長右衛門

一ぬ

ゆうふ思葉の外の不義いぐ〻長右衛門年とりぐ。おさぬ

とりくおうこさんのある分で知らう娘のおさんぐ。ぐおりふ

さをさらぐ〻者今「コウ〻ふふとゝのらくあアあんの狂ぐ伝ぐ。

ゝ又実説のことふ日あろるんのおまぐあるくさいそんるんと

ゝあるる。未ふまいまぐ赤くるること。おめまうぐるるあのぐ

泥ふとのんぐ。ふのそう多日足まえさの。モウの加減ふ変

りちとやいて久〻しぶりぐ〻。ゝりとちちくよんれくヨトぐ

「ゝゝゝ」いモウあんまり猪〻ゝゝて夢ぢやアるのゝと思

ひまするヨ今「シ爰ゝ〻大ゝ。ゝあくさあまとびゝとおりふぐ

ゝゝ「又そんるあのことを爰ゝぐぐいゝまぐもさゝ

ぐふおまとぐ。ゝのぐぐります今「ゝゝ。そゝてモシ爰ゝ

ぐふさとまぐ「ぐのゝゝ〻ちゃんぐお側ふあて今「

かぜ千代
きぶいろ
柿の
きゝ
初ちぎり
嬉遊用三
十三

うゝ小三「ヲホゝゝのあんごぞのますヨ」金「療るのぞらあり」小三「ざんぞうぞん
ちゃまよせんと」金「十二ちゃうねんとまく」
つうてはあじごちうドレちようつとまくこあそこんようト」
人もうちとけてちがりそあるあるこびゝゝ玉のあせたとや
ちがりゝん かゝて見より金ゝの帝のみ年 座へ人とたゝらせ
芸名宿とまるみれよ毋てホ三ホ剣面させゝゝび芸名づるも
ちゃうホ稽こさせまきてそ兄弟のまあで遊ふさ涙
よろこびホ様ゝさいあまる悲ゝさい弟まゝふるゝねつとあ

と新あぢれるさ世とうちあたち泣つゝこひつ夜と丸ホ
かゝてこホ憂とうゝけるかくまで小三と金ホ帝い泣うゝ
中ホ人実名づるいホ三のあのみまでいるけとも千世ホ八
ホ世ホさえうけて不便とおひ嫌こえお情うけてぐさまろ
しといと念頂ホこのこける備ホ金ホ帝い小三と接アとを
ホーよろこびホ泣ホる意中ホ一日遊ねば帝ホ分ゝ二日
顔とうえホ陽いえホさまびホ苦ホるるまで一ト世あまろ
通ひろうころゝホ師走の末ホ雪い来ぎ春の花とちり

あるさいとそれぬ若い同士。雪ゝんの私と逢へうけ。連とさぐーそ
きんぞうの。金ゑ郷いろろ多び撥様不ひとり家田乗座へ入り来
ぜば。そととうるよう若い者「こゑ見れぬどぶお遅よさのの
大雪ゝのようの出さぐんで金「雪のうる夜も面の夜も。かくひろうと
の大門ゝ。ぱゝめつぞう宝くらてげん乳なのヨ十云いらりの
さより阪迎ぐらうの十者「ヨウト合点承知ゝ。モシ今夜の
いろうろおあつさまんゑせの半サアお二階へいそごんゝ
奥の小座敷へ通ぜば「ヨイ金さんよく

いゝ客の半ゝさ。お私ゝのぶぶんうゝ半ゝ。金へさうみ
丈ぐゝ「だい客のの「よくらのアアおさものみ。あるとものようぺ
どふこさんゆゑアの出伝伝ぐぐさい半子金「ぐ出さのさらのとれ
つゑス。ゝゝおあくるんぐもの客良いよう。乳ゆくとのひ。ゑんるを
まる男ゝ変ゝらんおさ「ヨヤよろゝゝ半ゝおんるさ。るんの
私の中ゝゑ者とうゆゝてくるる人ぐぐの半半ヨ金「ゝ半く
りゝぜ。ゝゝぷりとゝんねゝ忘ゝ夜ゝりのお吸角をメるる人ゝのゝ
おさくさんあゝ「ヨ半ゝあんゑ。めゝゝゝのとをふこさんゑらのはけ

ちすよ　金「ハヽコウお菊さん。おあめを献上あるようと思うて持て来
たのがあるけ。」　「あゝるさとだのふ。
毎度ごめんおくれのごくさるそ　金「るんのアヂ及つてられて迷惑ナ
おめんのとたを紀の間やのごゝ」　「生とをありがとうござる
生れうんを執筆ごと添え肥のてござりまん子。ぞ金生とを
風とのひ甲とらひらつそ好さ形でござりござりまチョ　金「コヒ
だんをふこい組合を仙ゝのごとぞ成へ出てある人」　「イヽエ
るんでござのまちとヨ　ゝにがかり匹ゝるんござりられるこぶ悪

いとやゝでゝこんなおざゝたとこゝちとて引ちんでがあるさのまちまよ
金「さゝうゝごゝあるさのゝまとのの癪ござりゝ」　「十二癪でがありまん
まちのゝ大ゝさ地雪をあるんなすゝさのでがありませゝ。小三さんの乳
色のゝるのいお生人さんのお菜ゝらちちよくゝさまちまゝゝまゝ
るゝ世ん乗りませゝ　金「何のかんのと持ゝゝゝのゝおめ
ようれどさるのごゝトちゝゝるゝゝゝゝ　「ヨホゝゝるゝごゝりまに
おさゝかゝるゝゝへめ　指ゝとおゝのて出身るまゝごゝかゝるやまゝげ
れどるゝふこいまゝゝと
お新及さ人由為るゝゝゝ。おゝひ髪るゝ島田髷。髪のあゝま」

毛寝くらぐるとーと。黄揚の小揚ふうに。あげつ。おりに。新ふ
ゆまつりとうとうひとをくむあのこのうい。信ふ所謂いの
取男ろうーとの人。屋けと。金あ。帝いあんうあろう。寝ろ
びてある。側へ。ぷ三いようそひ。さーろうむ。ーとさのぞ。金「ぐんーー。
ひぐーふさぐの人。雪の。ふさふあるろう。かぜだゆ。引ア。右
ねうの。小三「風ゆちうとの。引ちうぐ。そとだろうていあり。よ
せん。金「フウ。それだゆ。ちうの。枯病の。猴ろ。小三「枯病や。酒
の二日酔ろ。ふさのぞ。あてゆあるうさのお。顔ろ。人とびあるろ。

のゆそんろとぐひぐりません。金「ハテ。あつゆとのうんぐ。
そんでアぐいんとぐ。小三「ろんぐろのつて。苦ゆのつて。人ゆ。云
まゆんの。苦労。金「十二人ゆのまゆ。苦労が。出来。ハテ。ハアそれ
ぢゆアんろ。ぐこの。宿ぐ。寄うけ。とさるとのうんろ。小三「ろんのアア
そんろとぐアンろんぐぐのます。金「ろんぐとの。小三「アア。是ぐぐの
ますとト。ーとうふうれとうくも。金「そんろ。ーとうふうれとうくも。
かさまりぐ。出来とのうの。小三「ハイそとぐろ。モウ。ゆとふとら
うたろりません。金「ろんのとろーとのうとふぐ。ぐんぐかうの人ろぐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雀

春

中

無序

八月初七日完

明治

二年